

# 樟木館日和

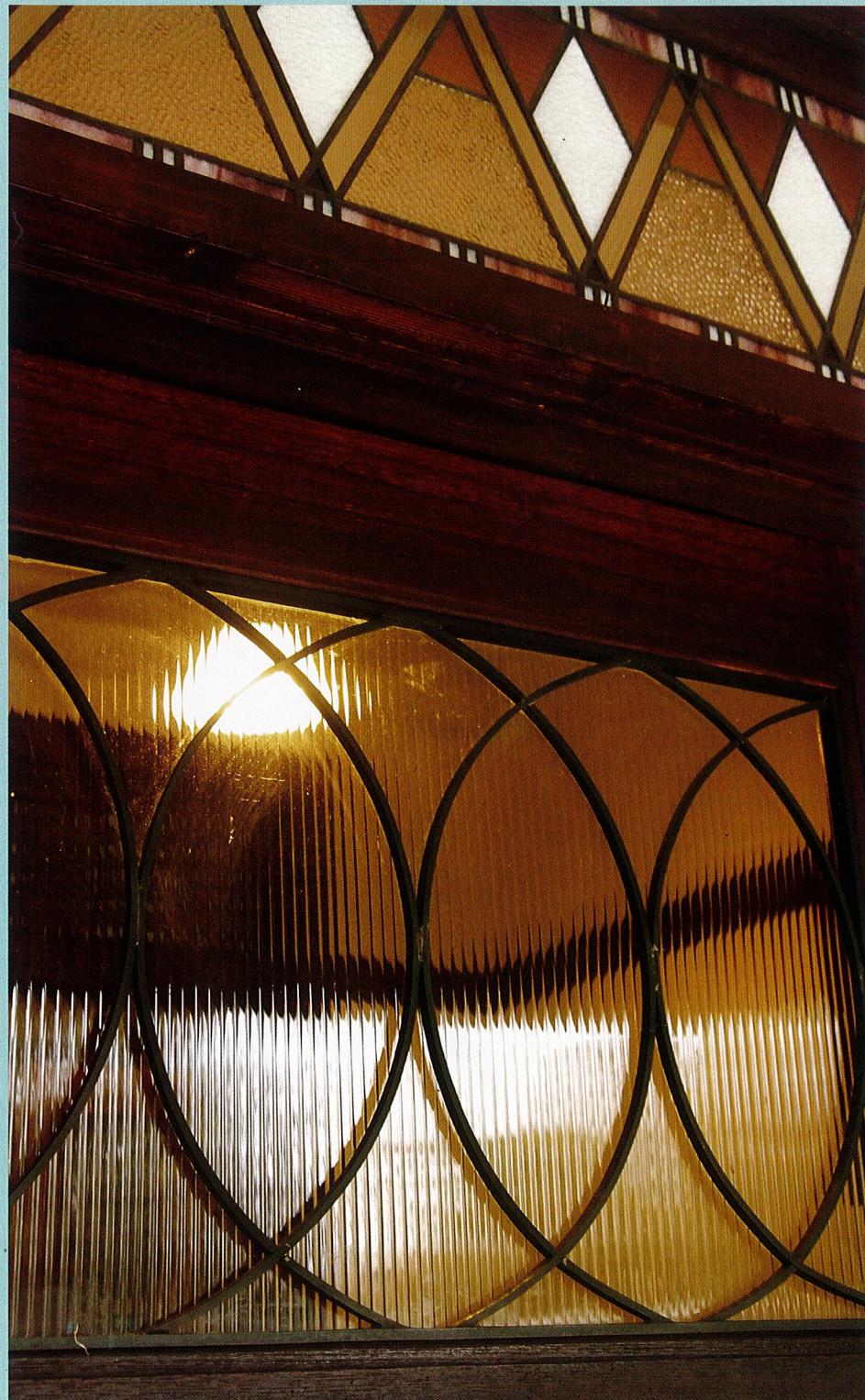
しゅもくかんびより◆第十三号



発行日:2016年3月30日

発行:文化のみち樟木館

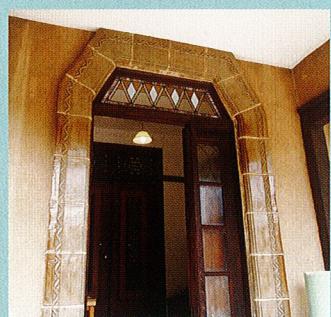
指定管理者:特定非営利活動法人樟木俱楽部



## 玄関を設う

しつら

文化のみち樟木館。輸出陶磁器商、井元為三郎によつて建てられました。  
その館は、都會のけん騒を忘れさせるよう静かに佇み、  
大正末から連なる記憶を今へ伝えて います。



玄関の大判のタイル装飾や扉上部のステンドグラス、星形の青いガラス照明器などはアールデコ風のデザインで、様々な意匠が共存する瀟洒な設えは、館内でもとりわけ目を惹く。  
(2面「洋館の玄関について」より)

先日、催事の打ち合わせで樟木館に伺った時のことである。初春の冷たく澄んだ青空に、洋館の黄土色の土壁と赤いスペイン瓦がほんのり暖かく感じられ、まことに清々しく美しかった。蛇行する煉瓦に添って玄関へ向かうと、ポーチの柱に名栗(写真・中段)が施してあるのに目が行った。名栗とは柱面を手斧で削って凹凸に仕上げる技法で、数寄屋建築などに見られる日本伝統の意匠である。この洋館は明治の末期頃にアメリカで流行し日本へも移入されたスペイン風住宅、いわゆるスペニッシュ様式で設計されているが、細部には和風のティストも混入している。また玄関の大判のタイル装飾や扉上部のステンドグラス、星形の青いガラス照明器などはアールデコ風のデザインで、

# 洋館の 玄関について

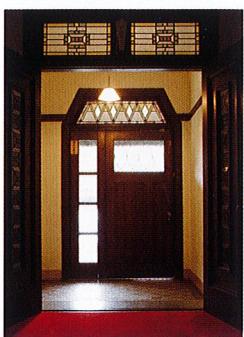
村瀬良太

様々な意匠が共存する潇洒(注1)な設えは、館内でもとりわけ目を惹く。

これら手の込んだポーチや玄関は、当時、上流階級の住まいであることを現していた。そもそも玄関とは「玄妙な道理の入口」を指す禅宗の言葉という。それが室町時代には武家や寺院、貴族の邸宅の輿寄せ(注2)の名称として使用され、江戸時代になると格式のある出入口を指すようになった。ちなみに民家では通用の出入り口は玄関ではなく土間であった。現在一般に言う玄関は明治以降に定着したものだが、その頃にも江戸時代の身分差や格式の気分が残り、上流階級の住まいには立派な玄関が求められた。折しも文明開化で社会が激変した時代である。

洋風の生活に洋風の建物が移入され、それに準じてポーチや手の込んだ装飾が玄関を華やかせた。  
ひるがえって見てみると、現在の玄関はどうだろう。ほとんどの家で出入り口としての機能を満たす以上の意味を持たず、また豪華な装飾も住み手の要望に応じて取り付けられる。洋風スタイルの生活はすっかり日本に馴染んでおり、玄関の戸は引き戸でなく押戸が一般的である。

外開きに定めてある。つまり緊急時に外へ出る際、スマースに押し出されるように規定されているのである。ただしこそ設当時はまだ洋風の生活も今ほど同化されておらず、向こうのスタイルをそのまま踏襲したからだらうが、一方で内開きの所作に思いを馳せてみると、そこには別の意味も読み解ける。それは、客を迎える姿勢として、外へドアを押し出すより内へ引き入れる方が、よりもなしの気分を与えるのではないか。また靴をきちんと片付けた玄関には、住人の奥ゆかしい人柄を想い浮かべる。樟木館の門をくぐると感じる、あの潇洒で心地好い雰囲気は、そんな往時の残香も漂っているからであろう。



内へと引き入れる玄関扉



写真:玄関ポーチ柱の名栗仕上げ

(注1) 潇洒 すっきりとあかぬけしているさま  
(注2) 輿寄せ 貴族などの邸宅で、車を着けて乗降する所。握って手前に引く外開きが一般的であるのに対し、欧米では押して入る内開きが一般的なのだ。この差は何であろうか。まず考えられるのは生活スタイルの違いである。日本人は玄関で靴を脱ぐため、内開きでは玄関に靴があると

むしろ戸ではなくドアといったほうが耳に馴染む。だがこのドア、欧米のそれと比べて明らかに違つた。それは、開く方向が逆なのである。つまり日本ではノブを握って手前に引く外開きが一般的であるのに対し、欧米では押して入る内開きが一般的なのだ。



様々な意匠が共存する玄関へのアプローチ

村瀬良太 1977年生まれ。建築史家。  
共著に『結婚式教会の誕生』『あいち建築ガイド』等。

# 館内の扉いろいろ

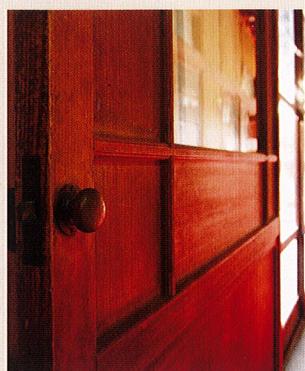
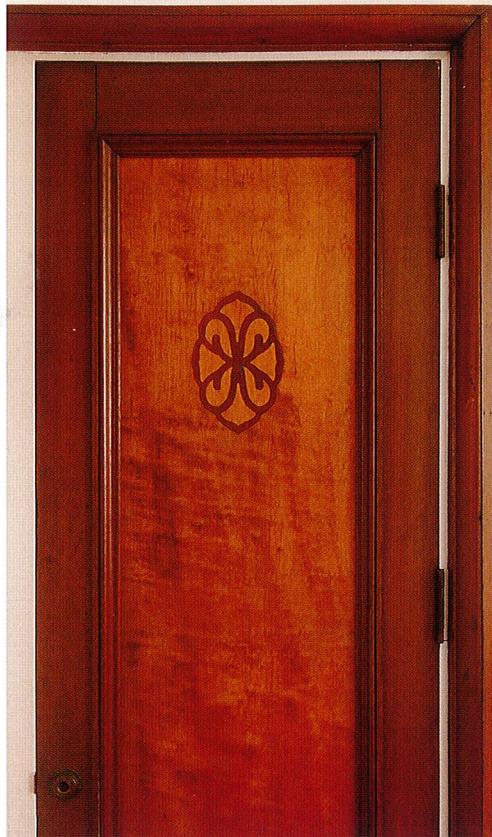
樟木館の館内各所の扉に施された美しい装飾や工夫にも、為三郎のこだわりをうかがい知ることができます。

美しい細工により、どの扉の表情も様々で、その部屋がどんな用途で使われたのか、遠い昔に思いを馳せながら、ゆっくりとご覧になられてはいかがでしょうか。

鳥や植物をモチーフにした美しい木象嵌  
(木象嵌とは、さまざまな模様を刻み込んで、木材をはめ込む技法)



メイプルの一枚板に施されたステンドグラス



和館の廊下へ続く手前の扉は木組みにガラス、取っ手には和館には珍しく、小さな丸いドアノブがついている



むそうまと無双窓が施された引き戸  
(無双窓とは、江戸時代からの細工で、あかりとりや風通しのために、扉の一部がスライドする)



1/11 女性講談師 古池鱗林  
(現旭堂鱗林)の初笑い講談



12/2～12/13 ドイツと日本・陶磁の出会い  
～セラミックデザイン、器じゅエリーの場合



文化のみち樟木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭をお貸しします。詳しくは下記の電話番号、ファックス番号へお問い合わせください。ホームページをみてください。

平成27年度 催し物暦 (9月～3月)  
10/10～11/1 11/11～12/13 11/3

伊勢刑紙で飾る  
「日本の風景」展

「歩こう！」  
文化のみち2015